「肝予備能の改善を目的としたバルーン下逆行性経静脈的塞栓術(BRTO)による門脈大循環短絡路閉塞例の長期予後の検討」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんのカルテ情報を用いた以下の研究を実施いたします。本研究は、【埼玉医科大学病院 IRB】の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。
本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、カルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

１．研究の対象となる方

2010 年 1 月 1 日から 2024 年 6 月 30 日の期間に埼玉医科大学病院 消化器内科・肝臓内科を受診し、肝性脳症または肝予備能低下の原因となっている門脈大循環短絡路を有する肝硬変症例と診断され、治療を実施した患者さんを対象としております。

２．研究の目的

肝性脳症または肝予備能低下の原因となった門脈大循環短絡路に対して BRTO を行った症例の長期予後を解析し，同療法の有用性について明らかにします。

３．研究期間

病院長の許可後～2025 年 3 月 31 日

４．利用または提供の開始予定日

2023 年 9 月 19 日

開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

１．試料・情報の内容

試料：なし

情報：検査データおよび診療記録より下記の内容について利用します。

患者背景（年齢，性別，肝疾患の成因），肝予備能，血算，PT%，Alb，T.bil，NH3，その他の血液生化学検査，合併症（肝性脳症，腹水，食道・胃静脈瘤，異所性静脈瘤，門脈血栓，肝癌，その他），門脈大循環短絡路の種類，門脈血流量の変化，BRTO 施行日，BRTO の方法，治療効果，転帰

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学病院 消化器内科・肝臓内科において、研究責任者である持田智が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

２．試料・情報の取得方法

肝性脳症または肝予備能低下の原因となっている門脈大循環短絡路を有する肝硬変症例と診断された患者さんの治療を実施した際に生じた検査データおよび診療記録等を用います。

３．試料・情報を利用する者（研究実施機関）

埼玉医科大学病院　消化器内科・肝臓内科　持田　智

４．試料・情報の管理責任者

埼玉医科大学病院　病院長　篠塚　望

お問い合わせについて

ご自身のカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。

利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。

ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

埼玉医科大学病院　消化器内科・肝臓内科　菅原　通子

住所：〒350-0495　埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷 38

電話：049-276-1198（土日祝日を除く 8：30～17：30）

〇研究課題名：肝予備能の改善を目的としたバルーン下逆行性経静脈的塞栓術(BRTO)による門脈大循環短絡路閉塞例の長期予後の検討

〇研究責任者：埼玉医科大学病院　消化器内科・肝臓内科　持田　智